第６回中部歴史まちづくりサミット　パネルディスカッション要旨

○コーディネーター：　静岡文化芸術大学名誉教授　川口 宗敏 氏
○パ ネ リ ス ト ：　高山市長 國島 芳明 氏、亀山市長 櫻井 義之 氏、犬山市長 山田 拓郎 氏
恵那市長 小坂 喬峰 氏、美濃市長 武藤 鉄弘 氏、明和町長 中井 幸充 氏
岐阜市長 柴橋 正直 氏　郡上市長 日置 敏明 氏
名古屋市長 河村 たかし 氏、　伊賀市長 岡本 栄 氏
岡崎市長 内田 康宏 氏、三島市長 豊岡 武士 氏、掛川市長 松井 三郎 氏
伊豆の国市長 小野 登志子 氏、中部地方整備局長 勢田 昌功

○テーマ：①「これまでの取組、新たに見えてきた課題や社会的背景を踏まえた今後の取組について」
②「認知度向上、回遊性向上、災害対応の視点から必要な取組について」

●主な意見

テーマ①「これまでの取組、新たに見えてきた課題や社会的背景を踏まえた今後の取組について」

・高山市の歴まち 10 年の成果は大きく３つ。1 つは、まちの魅力・景観の向上、2 つ目は外国人観光客を含めた観光客の増加、3 つ目は高山祭りの継承やまちなみ保存に関する住民活動の活発化。今後は、少子高齢化に伴う人口減少、一部地域での交通混雑、増加する外国人観光客への対応等の課題に対応する取組を進めていく。
・亀山市では、伊勢亀山の城下町と３つの宿場町（亀山宿・関宿・坂下宿）の歴史的風致を高めるため、ハード面の整備を進めてきた。今後は、歴史まちづくりを軸とした新たな文化創造に繋がるイベントの開催や情報発信の強化、歴史文化を次世代に伝えるシステムの構築等ソフト面の取組を進めていく。歴史まちづくりの取組を重点区域以外にも広げていくことが重要。
・犬山市では、犬山城下町を中心に取組を展開してきた。本町筋の道路拡幅計画を見直し現道幅でのまちづくり、古いまちなみの修景や電線の地中化、名鉄とのタイアップによるキャンペーンなど。今後は、駐車場不足や渋滞、夜の賑わい創出、まちの魅力向上に向けた景観づくり進行する歴史的建造物の滅失等の課題に対し取組を進めていく。
・恵那市では、岩村城下町において景観に配慮したまちづくり、岩村町における建築物の修景、電線地中化・道路美装化等に取り組んできた。今後は少子高齢化に伴う空き家の増加という課題に取り組んで行く。
・美濃市では、うだつの上がる街並みが伝建地区に指定され、無電柱化、建物の修景、道路のカラー舗装等に取り組んできた。美濃和紙という伝統文化の後継者不足、空き家の増加、高齢化による祭礼行事の担い手不足等の課題に対し､「美濃和紙伝承　千年プロジェクト」を立ち上げ取り組んでいる。
・明和町は、斎宮跡が重点区域であり、散策路の整備などを進めている。平成 27 年に「祈る皇女斎王のみやこ」が日本遺産に認定され、重点区域以外にも 12 カ所ほど認定を受けた。それらをどのようにネットワーク化するかが課題。また、5km 程の周遊コースの移動手段の確保が課題。
・岐阜市では、長良川の鵜飼い、岐阜城を拠点としたまちづくりを進めている。これまで、日本遺産の認定、岐阜公園での三重の塔再整備、鮎鮓街道の石貼舗装等に取り組んできた。金華山の中腹で岐阜城の石垣が新たに発見されたことから、今後は、本物の石垣の発掘調査を進めながら長良川鵜飼や岐阜城の歴史文化の厚みを増していきたい。
・郡上市では、郡上八幡城下町において電線地中化、古いまちなみの修景・修理に取り組んできた。まちなみに入ってくる車と人の整理、駐車場の確保や二次交通の整備等の課題があり、現在取り組んでいる。
・10 倍の軍勢を打ち破った世界でも稀に見る大逆転劇の舞台となった桶狭間は、現在、公園として整備している。名古屋城は当時の図面が残っており、当時のまま復元したいがなかなか進まない。歴史的建造物の復元は人類使命という気持ちで取り組んで行きたい。

・伊賀市では、上野城下町と宿場町の風情が残る阿保宿について、地域性を尊重しながらまちづくりを進めている。今後は、武家屋敷の整備や町家を活用した活性化事業を展開していきたい。人口減少、中心市街地の空洞化、歴史的建造物の維持・継承という課題があり、行政だけでなく民とも連携し進めていきたい。
・岡崎市では、岡崎城をはじめとした歴史文化資産を活かしたまちづくりを通じ、「夢ある新しい岡崎」の実現を目指している。岡崎公園については、可能な限り本来の姿を再現し整備したいと考えており、現在、発掘調査を進めている。課題は、文化財に指定されていない歴史文化資産の保全。社会全体で継承する取組を進めていく。
・三島市では、歴史的風致の維持向上を図るため歴史的風致形成建造物 13 件の認定を行い、保全整備事業を推進するための補助制度を創設した。また、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、「歴史的風致活用国際観光支援事業」を活用し、案内看板やスマホサイトの多言語化、英語ボランティアガイドの育成に取り組んでいる。
・掛川市では、上限 100 万円の独自の補助制度を創設し、城下町形成を支援している。平成 25 年に景観計画を策定し、掛川城天守閣より高い建築物を制限している。横須賀地区は、地域住民によるまちなみ保存活動が活発。練りの似合うまちなみをテーマに建築物等の形態意匠を制限している。今後も、都市計画や景観計画も活用しつつ、取組を進めていきたい。
・伊豆の国市は、歴まち認定されてから 3 ヶ月。文化を育てるための人材育成が重要。小・中学校の社会見学や伝統文化芸能の鑑賞体験等を通じふるさと意識の醸成に取り組んでいる。

テーマ②「認知度向上、回遊性向上、災害対応の視点から必要な取組について」

・認知度向上に向けた取組として、山頂部の発掘調査を一般公開することで、本物が残る岐阜城をＰＲしていく。
・帰宅困難者のための宿泊施設の整備が課題。また、Wi-Fi ステーションを整備し、行政の持つ災害関連情報の提供を行っていきたい。(明和町)
・美濃和紙あかりアートは、インスタグラムなどの効果もあり、2 日間で 10 万人の来場がある。美濃市の町中には、間口が狭く奥行きの長い家が多い。そのため、火災が発生した際、消防車が入れない場合があり、対策が必要。
・NHK の連続テレビ小説の舞台になったことで、岩村町本通りの観光客が昨年比５倍になった。どのようにリピートしてもらうかが今後の課題。「モノの消費からコトの消費」を意識し取り組んでいきたい。
・回遊性の向上に向けた取組としては、名古屋鉄道と連携した取組が非常に上手くいっているので継続していきたい。市内の他の観光資源との連携にも取り組んでいる。防災対応としては、城下町に隣接する場所に防災公園を整備し避難するための空地を確保している。また、火災に備え、初期消火体制の構築や消火設備の設置も進めている。(犬山市)
・災害対応にあたっては、自治体間の連携の重要性を感じている。平成 24 年に岡山県高梁市と災害時応援協定を締結。この協定を足がかりに文化交流も行っている。このような場で各首長が顔を合わせ、良好な関係を築いていくことがいざという時の備えになる。(亀山市)
・名古屋城が復元されれば、世界最大の木造建築物となり目玉になる。
・災害時の外国人対応については、伊豆箱根鉄道と連携し訓練を実施している。また、富士山の玄関口として、周辺地域と連携し観光振興に取り組んで行きたい。(三島市)
・全国ふるさと甲子園では、人気ユーチューバーとのコラボにより、良い情報発信ができた。災害対応にあたっては、専門的な知識・経験のある民間団体との連携が欠かせない。(岡崎市)
・伊賀市は「忍者市」を宣言した。認知度向上を図るためには、マスコミを上手く使い情報発信を続けることが大事。
・発災時の外国人観光客の円滑な避難誘導に向け、防災訓練では英語・中国語による広報の訓練を行っている。また、回遊性の向上に向けた取組としては、市域全体の歴史的資源に着目したモデルコースの充実を図り、周遊プランの選択肢拡大に努めている。(郡上市)

【以　上】